

中山隆三 なかやま たかみ 脚本家。大正五年十月十七日東京生れ、昭和五十二年一月十七日歿（一九六〇年）。昭和十六年慶應義塾大学中国文学科卒業後、松竹脚本研究所に入る。在学中、雑誌『文藝汎論』、『三田文學』等へ小説を發表。シナリオ第一作は、室生産屋原作「よきとひと」（昭和十六年吉村公二郎監督作品）で、出征を換へて二十五年へ退社するまで、松竹映畫全盛時代の娯樂作品二十餘本を書いた。その後テレビ・ドラマの脚本を多く手掛け、大映のシナリオ作家養成所講師、映倫の邦畫擔當審査員を務めた。

『中山隆三—その人と作品』(『中山隆三—その作品』編集委員会編、昭和五十四年十月十七日中山幸子刊)がある。



中山 隆三

その人と作品

中山 隆三

その人と作品